

墨



そんたくの花埋みしや

棺一基

汗顔の油絞りて 啼く蝉が

温暖化 焼け棒杭にコアラ哉

日一日ゼリー状の海に融け

崖つぶち 軌むグレタの声ひびき

飽食と胡乱の民に 槍の雨

不条理※の屍かばねこやしに 咲く花が

死してより人は捧げし 花はな一いち匁もんめ

鬼胎児は祖父の股より生まれけん

折三矢おれみつや 某がが背負いし紋所

五輪祭 カギ十字がほめコトバ

※然る官廩の死を悼みつつし。

仇情[※]け 竹篋^{しゅべい}返しのコロナ哉

殺気立つ マスク一つの人集^{ひとだか}り

GDPウイルス呑みこむ 折れグラフ

4

キチガイに 刃物一つの事態法

風土病クルーズ船で 旅をゆく

※たかがコロナ一つで見せ掛けの生活基盤の底がぬげ。

皇国の干モノ令和の水に解き

天皇制 赤子^{せきし}むずかる瘡^{かさ}の下

天皇制 国が御用の自在鉤

菊人形 幾重に折れて金縛り

不文律 おとぎの国のミカド哉

相模原 優生齒牙を剥きだしに

名を聖ひじりしじまの器 血で洗い

甲と乙 名になき民を二度あやめ

遮蔽板※しゃへいばん 丙なるクニは扱て置きて

ひよんな奴 刎ねて擬態の国が視え

※遮蔽板＝法廷での被害者家族の目を被告人から隠すための仕切り。
何のためのブラインドか。

舌の先嘘を研ぎだす 皮一つ

検事正 裏街道は籠＊の中

法務省 曲げた禁じ手ことをなし

法務省 馴らし女狐飼い置きて

法務省 深海なりて怪魚棲み

※籠は鴉籠に非ずして！。

神かくし　ハーメルンの笛の音が

文明の片や宿痾の　花ひらく

蕊しんなくて　指さに咲かした花二は〇ち才

飼育箱　食みでる児らは鬼が食い

死児ありて紅の鼻緒のじよじよが泣く

一億人[※]ノルアドレナリンの 壺の中

子^{ボーフラ}子もあした血を吸う みどり児が

大嘗祭 一夜点した 御飯事^{おままごと}

ヒトラーの優生思想 かおのぞき

オオム刎ね空宙浮遊の夢せまる

※交感神経から分泌される神経伝達物質。外的要因で心身を圧迫
脅迫観念に駆られる。

口三味線　きのうありしと猫被り

観桜会めぐる盃さかすき　影差して

横一線だく足そろえ　媚売るや

公文書　仕出し易しき　海苔一重ひとえ

したばかま連れしお伴はシュレッツダー

泡立草窓辺を走る 異邦人

トランプの念仏無きや 馬の耳

風琴でホラも吹きたるモンスター

習近平“総身に知恵が回りかね”

ジョンソン氏コロナウイルスに取り憑かれ

曝^され首^{こゝろ} 人工^{こうぎ}知能^{ちのう}の宿^{しゆく}主^{しゆ}哉

ひよわなる屍^{けつ}の穴^{けつ}より弥^や次^じが飛^とび

街^{まち}なかのヒジテツ喰^くらうアショア哉

嘘^{うそ}八百 となえ国^{くに}なる屍^せいで

ドル仕^し立て 棺^{ひつぎ}残^{のこ}して 国^{くに}亡^なび

官邸の風めぐりしや 犯科帳

ミイラ取り異邦の骨に手を咬まれ

厚労省 奈落の骨の数合わせ

汚染水 コントロールは先に棄て

はやばやと縄目拝みしカジノ法

文科省 柱のキズが背の丈

法務相 メロンの網に蹴爪突き

詐欺集団 大化けなりて郵政省

副総理^{ミシクウハウ} 血によごれし脚を組み

藁人形 身に惜しみなく釘沈む

トランプの臭においぬたくる 手負猪

はきだめの鏡に写す ナルシスト

レガシーは重ねてめくる 嘘の皮

巴死ともえだに 五輪コロナとクニの某

世の不浄けがれ スカラベなれば蹴転がし

※スカラベは別名フンコロガシ。動物の糞を次の命に替える天賦の甲虫。
古代エジプトでは太陽神のシンボルとして崇拜され、それを象どったカフス
など、装飾品として愛用されている。

『遮蔽板』

目隠しされた法廷の闇のなか、不可思議な光景を抱くこととなった。

おぞましく残忍な行為。被告人植松某の因つてたつ差別感情が、過去連綿と牙を剥いてきた国家思想と、奇妙な重なりを見せてくる。加えて、昨今の経済優先ありきの弱者、障害者等、生産に役立たぬ人間の排除といった差別思想の蔓延。被告の盲動ともあいまって、忌むべく国家像は仕組まれ隠されてきた。闇とはこの事件が、国の宿痾との同一化を恐れてのこと。

被害者家族をもつて楯となし、国に邪魔だてする一切を隠蔽、斬り捨てる。すでに首を刎ねられているオオム地下鉄サリン事件の深層もまたしかり。

怖るべし独裁者とその走狗たる裁判官。忌わの国は更なるコロナウイルスに犯され、身も蓋もなく呑みこまれてしまったようだ。

闇の中のかくれんぼ。おろかなりしわが総理よ！「一気呵成」なる発言は、コロナウイルスではなく、おのれ自身の死にこそ向けるべきであろう。